

高専生の専門英語力 UP に向けた英語による理科実験教室

Improvement of Technical English of Kosen-Students in Science School for Students at Sasebo Naval Base

○柳生 義人¹、西口 廣志¹、石貫 文子¹、原口 和子¹ (1. 佐世保高専)

○Yoshihito Yagyu¹, Hiroshi Nishiguchi¹, Fumiko Ishinuki¹, Kazuko Haraguchi¹ (1. NIT, Sasebo Coll.)

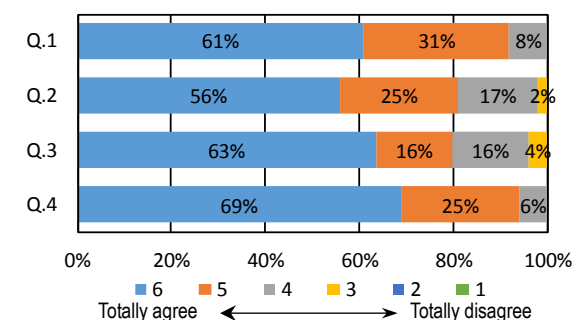
E-mail: yyagyu@sasebo.ac.jp

1. はじめに 「ものづくり」のあり方が大きく変わりゆく変革の時代を担う高専生達に対し、佐世保高専では、次世代のエンジニア人材を育成するべく、高専教育の更なる深化を目指している。その一環として、学生がこれまで身に付けてきた知識や経験を学生自らが活用していく力を育成するため、本科 4 年生を対象に知識活用教育(知活)という先駆的な授業科目を開講している。知活はコース制となっており、その一つに専門英語による実践的コミュニケーション能力の習得を目標とした「国際技術者コミュニケーションコース」を設けている。本コースでは、専門英語を用いた実践的な英会話能力の習得を目標とし、外国人講師とのフリートーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を行うとともに、「佐世保高専にグローバルを！」というコンセプトのもと、海外からの短期留学生や米海軍佐世保基地の小中高校生を対象とした英語での理科実験やキャンパスツアーなどを通じて専門英語を用いた実践的な英語交流に力を入れている。

本稿では、科学に触れる機会の少ない米海軍佐世保基地内の学校に通う小学生を対象に高専生が専門英語を用いて行った理科実験教室の取り組みについて報告する。

2. 本取り組みの方法 米海軍基地から参加する小学生の年齢に合わせた体験型の理科学実験を準備し、本校学生を 1 テーマあたり 2～4 名割り当てた。学生は、担当する実験テーマの内容や手順をポスターを使いながら説明することでプレゼン力を養い、また、安全を配慮した少人数の学生を割り当てることで、現場での会話の機会が増えるよう工夫した。事前に知活担当教員(本校教

員および外国人講師)



Q.1 I was happy with this event.
Q.2 I could understand the English explanation from students.
Q.3 I could communicate with students at Sasebo College in English.
Q.4 I want to join this event again if I have a chance.

図 1 米海軍基地内小学生へのアンケート結果

による添削やリハーサルを行い完成度を高め、当日に円滑に説明できるよう準備した。

3. アンケート結果 本取り組みに参加した米海軍佐世保基地の小学生を対象に行ったアンケート結果(図 1)は、肯定的な意見が大多数を占めていた。また、Q.2 および Q.3 は、英語によるコミュニケーション能力に関する問いかけであり、大多数が英語によるコミュニケーションが出来たと考えていたが、20%程度は、評点 4 もしくは評点 3 を選択しており、まだまだ改善の余地があることが分かった。Q.4 では、否定的な意見はなく、イベントに対する満足度は非常に高いことがわかった。米海軍佐世保基地内の小学生に対しては、身近な科学に触れる機会を提供することができ興味を持って参加してくれたのではないと思う。積極的に佐世保高専にグローバルを呼び込むことで、実践的な英語力の底上げを目指していきたい。

謝辞 高専生による専門英語を用いた理化学実験の実施にあたり、佐世保高専の先生方および外国人講師の皆様にご多大なご協力を頂きました。ここに記し御礼申し上げます。